



季刊学海

2017.4 春号

岐阜県立岐阜高等学校・校誌編集委員会

目次

平成 28 年度

学年集会	1
学年の和	5
卒業式	6
終業式・離任式	11

グローバルリーダー養成事業

職業・学問体験プログラム	16
国際交流体験プログラム	22

平成 28 年度

◆ 1月13日(金)

三年学年集会

センター試験に向けて

進路指導主事 市川 浩通

センター試験は2日間の長丁場です。これまで模試や過去問演習などで十分練習を積んできたとは思いますが、本番では何が起るかわかりません。重要なのは、平常心を保つことです。皆さんは二つの「う」を頭に入れておいてください。試験の感触がよくても浮かれるな。逆にできなくてもうろたえるな。いつも深呼吸をして落ち着きましょう。センター試験の5教科7科目で、全勝できることはあり得ません。良くて1勝6分け、普通で3勝4敗というところでしょうか。センター試験は途中経過にすぎません。センター試験の出来が良くても、何かを手に入れたわけではありません。逆に悪くても、何かを失ったわけでもありません。大切なことは自己ベストを目指すことです。一つ一つを丁寧に、そして真摯に向かい合ってきてください。

◆ 2月3日(金)

三年学年集会

自宅学習期間を前にして

進路指導主事 市川 浩通

センター試験前に、二つの「う」の話をしました。今日は3つ目の「う」です。浮かれるな、うろたえるな、そして嘘をつくな、です。人は簡単に嘘をつきます。それも自分自

身に対しては至極簡単に。その嘘は、時限爆弾のようなものです。時間が経つに連れ重く心にのしかかってきます。後悔をしない進路選択などありえませんが、納得できない選択はすべきではありません。自分に対して嘘をついてはいけません。君たちは今、正に人生の分岐点にいます。客観的に自分を見てくれる周りの意見にも耳を傾けてください。

自宅学習期間を活用して学力が伸びる生徒に共通していることは、生活のリズムが狂わないことです。受験において、生活習慣を狂わせることが最大の敗因につながります。一番良いのは、自宅学習期間でも登校して、学校でのリズムを保ち続けることです。適当な時間に塾へ行くなど、時間にルーズにならないこと。それが成功の秘訣です。間違っても自宅にこもりきりになったりしないように。一人で閉じこもることは辛いものです。国公立前期試験までのこれからの約1か月を、たった一人でモチベーションを維持し続けることは大変です。今まで一緒にやってきた仲間がいるからこそ頑張れるのではないのでしょうか。また、万が一、来年度再チャレンジを考えると、担任の先生などに相談をしましょう。塾の選定も併せて考えましょう。

◆ 2月16日(木)

一年学年集会

英語の学習について

英語科 大橋 聡子

先日、実力テストが行われました。英語では難関大学の入試問題が出題されて、難問でしたが、テストを受けていろいろ気づいたことがあると思います。受験した後、皆口々に、

単語や英作文が書けないと言っていましたね。その気づきをそのままにせず、何らかの対策と行動を起こしてください。気づきだけで終わるのか、アクションを起こすのかが、大きな差を生むポイントです。

ここでは英語力を飛躍させるためのアクションとして、三つの対策を話します。

一つめは、何といたっても語彙を増やすことです。実力テストの時に、廊下にいろいろな種類の単語帳がたくさん置いてありましたので、もうすでに努力を始めている人も多いのだと思います。まだの人はぜひ単語力をつける努力を始めてください。皆さんはどのように単語を覚えていますか。一般に、例えば1日10個ずつ、5日で50個の単語を覚えるよりは、5日間、毎日50個の単語を繰り返し覚える方が良いといわれています。また、覚えるときにはCDなどを使って正しい発音を覚えるようにしてください。CDや電子辞書の音声を聞く手間を省くことは、決して時間の節約にはなりません。間違った発音で覚えると、結局リスニングでは聞き取ることができませんし、スピーキングでは正確に活用できずに苦労します。自分の時間を大切にしたいと思ったら、手間を惜しまず正しい発音で覚えることです。

二つめは、正確に自分の意思を伝えるため、正しい英語を書いたり話したりする力をつけることです。これは、皆さんが授業で使っている『英語構文必修101』が最高の教材です。何度も繰り返し、完璧に覚えてください。101の例文がしっかり頭の中に入っていれば、話す場合でも書く場合でも、状況にあわせて単語を入れかえるだけです。

三つめは、教科書の英文を何度も何度も音読することです。英語は道具です。道具は誰にでも使えます。例えば、日本語は日本に生まれて使い続けていけば、誰でも話すことができます。努力が足らずに話せない人はいません。触れていけば必ず習得できます。それが、道具でもある英語の特徴です。大切なのは英語に触れる時間を意識的に増やすことです。できれば良質な英語に多く触れることが望ましく、その一番身近な対策は教科書の音読でしょう。

単語にしても構文にしても、記憶は暗記の重ね塗りです。大学入試には英語の学習が欠かせませんが、将来交渉の難しい場面でも使える英語力の習得を目指して、英語の本質を捉えた勉強をしてください。

数学の学習について

数学科 栗田 和輝

数学の学習については、改めて、きちんと家庭で勉強する習慣を身につけることと、家でじっくり演習する時間を確保することが大切です。

皆さんは、授業に一生懸命取り組んでいて、問題を解いてもらおうと結構スイスイ解くことができています。しかし、家で宿題をやろうとすると、解けないということはありますか？そして、宿題で分からない問題があっても、授業で聞けばいいやと放っておいて、後で振り返ったときに解けないということはありませんか？皆さんは授業で知識を得ていますが、それだけで分かったような気になってしまっている可能性があります。家庭で勉強しないと、結局、知識は定着しておらず、テスト前になって焦ってとにかく知識を詰め込むという事態が起こります。皆さんは能力があるので、これでもそれなりに得点できることもあります。付け焼き刃の知識では、すぐに忘れてしまいますよね。

数学で大切なことは、やはり基本事項の反復練習です。問題を解きながら意味をじっくり考えて覚えていくことです。この春休みはしっかりと復習して、知識を定着させてください。それが数Ⅱ、数B、数Ⅲと進んでいくとき力になってきます。ぜひ頑張ってください。

国語の学習について

国語科 日置 友理

皆さんは、この一年間一生懸命国語を勉強してきました。今日は、これまでの皆さんの頑張り、これからどのような気持ちで学習に取り組んでほしいかについて話します。

一年間通して国語の課題に取り組んできた中で、一番大変だった、苦労した、時間がかかったものは何でしょうか。おそらく多くの人は、古文単語カード、漢文句法カードを作り、覚えたことを挙げるのではないかと思います。皆さんが覚えた古文単語の数は、163語に加えて敬語25語の合計188語で、漢文句法は134の例文です。この数を聞いてどのように感じるでしょうか。自信を持って、覚えたと言える人、まだまだ覚えられていないと感じる人、様々だと思います。その成果が客観的に表れたのは今回の実力テストです。古文単語カードで覚えた単語、句法カードで出てきた句法がいくつも出てきました。実力テ

ストは入試問題をアレンジしたものです。今回の実力テストでの手応えは、二年後の入試での手応えと同じだといえます。皆さんが今一生懸命取り組んでいることは、将来必ず役に立つということです。

皆さんには、今、取り組んでいることを大切にしてほしいと思います。目の前の小テストのためだけでなく、将来のために今やらなければならないことを確実に身につけていきましょう。そのような小さな努力が、二年後皆さんの大きな助けになります。これからも一緒に頑張っていきましょう。

三年生担任より

進路指導部 中山 和哉

今日は、間もなく岐阜高校で1年を終える皆さんに、1年前を思い出し、2年後のことを考えてほしいと思い、話をします。

このところ模擬試験や実力テストが続き、まもなく学年末考査と、一年生も苦しい日が続いていますね。一方、三年生は先月センター試験を終えて、私立の受験も大半が終わり、その入試結果が続々と判明しているところです。今は国公立二次試験まであと10日を切り、いよいよ正念場です。生徒と話していると、人生最大のピンチですとか、滑り止めに落ちましたとか、いろいろな悲鳴が聞こえてきます。ただその中で、先輩たちは前を見て、必死で進路実現のために頑張っています。

皆さんも1年前は同じく受験を間近に控え、この岐阜高校に入るために毎日一生懸命勉強していたことでしょうか。合格発表の時はどんな気持ちでしたか？ ある三年生は当時の受験票を3年間常にかばんに入れて、大学入試にまで携えていったそうです。それほど高校入試が大切な体験だったのでしょうか。どのような思いでこの高校に入学してきたのか、その時の気持ちを今一度思い出してください。合格発表の時の皆さんの歓声は、今でも覚えています。1年前と今ではどちらのほうがかんばっていますか？ この学校で他の人と比べると苦しくなることが多いかもしれませんが、1年前の自分と比べてみるのが大事かもしれません。過去の自分にならきっと勝つことができるからです。

2年後を考えたとき、待ち構えている大学入試は、高校入試とは全く違います。皆さんには高校入試での成功体験があり、中には中学三年生から挽回した人もいますが、中学のままの学習習慣で今の学習に向

かっているとしたら、次々と新しい内容になる高校の学習にはとても追いつきません。いつまでも中学四年生では困るわけです。例えば、センター試験はほとんどが高校1~2年次の教科書から出題されますが、範囲も質も高校入試の比ではありません。今年度センター試験で85%以上得点できた生徒は何人いたと思いますか？ 答えは79人です。因みに、85%というのは最難関大学や国公立医学部のおおよそのボーダーラインです。マーク式の試験にもかかわらず、決してやさしいものではないことが分かると思います。

先日、三年生に、後輩へメッセージを書いてほしいとお願いしたら、皆熱心に書いてくれました。いくつか紹介します。

○僕は岐高に入った時、350番台の成績でした。それから3年、僕は実力テストでクラス1位を取るほどになりました。周りが化け物だらけの環境でも、何とか食らいついていこうと1年生の時は思っていました。

(中略)部活などがあっても、限られた時間で自分の勉強ができるよう「食らいついて」いこうとする人を、心から応援したいです。

○1年生の時、毎週やっていた構文のテスト、あの当時は、何が楽しいのかと思っていましたが、今になってやっと、意味が分かった気がします。

○先生に東大を目指さないかと言われ、自分の意識も上がりました。高い目標に向かって勉強でき、(中略)そこそこの大学しかいけないと思っていた自分の人生が大きく変わったような気がします。

○ある程度学習が進んだら、思い切って志望大学の過去問をやってみるとよいと思います。自分の今のレベルとどれくらい差があってどんなことをどれくらい勉強すればよいか分かって、よい刺激になると思います。

能力のある人はそれを発揮する義務があります。私たち岐阜高校の教員はそのように皆さんのことを考えています。新たに決意をしてください。それは、○○大学に合格する、ではなく、休日も平日と同じ時間に起きるとか、スマホのアプリを消すとか、小さなことからでも構いません。時間とともに決意は薄れます。そんな時は紙に書いて毎朝見ます。毎朝、決意し続けるのです。この学年集会が、皆さんにとって1年前を思い出し、2

年後のことを考える機会になればと思っています。

◆■2月16日(木)

■二年学年集会

将来について

学年主任 杉山 晴美

昨日行われた FPT の授業で、この1年間の振り返りをしました。入学以来行ってきた FPT は、これで全て終了しました。FPT では、入学間もない4月に「私の夢」を発表して以来、大学研究や職業研究を行い、見識を広める講演を聞くなどして、将来について考えてきました。ここから先は、狙いを定めて、ただひらすら夢に向かって頑張る1年にしてください。また、迷ったときは敢えて困難な道を選んでください。簡単な道、楽な道に絶対に逃げないでください。

学力をつける

進路指導主事 市川 浩通

大学への進学を考え、今はただひたすらに実力・学力をつけなさい。自分の夢や憧れがなければ情熱はもてませんが、憧れに振り回されてはなりません。その客観的な判断材料として学力が必要です。そのために勉強しなさい。推薦入試や AO 入試を考えている人への忠告です。これらの方式で合格を勝ち取ることは、そんなに甘いものではありません。科目を絞って私立文系を専願にしようとしている人への忠告です。それ相応の実力を身につけていますか？ 最難関私立大学の合格を狙うなら、最難関国立大学の合格を狙うのと同様以上の実力が必要です。大学入試を突破するには、学力が必要なのです。そして、継続的に勉強しなければ学力はつきません。

国語の学習について

国語科 野村 公宣

取り組んだ時間が力になる。試験に於いては、現代文よりも古文・漢文に先に取り組もう。

【古典】現在古典が苦手な人は、実は得意科目にするチャンス。岐高生は安定して得点できる人が多い。古文単語、文法、句形など自分に必要なものをたくさん勉強して確実な力をつけよう。新しいものにどんどん取り組むと良い。

【現代文】すぐに結果は出ない。記述問題で

はどのように答えたら良いかが自分では分かりにくいので、先生に添削してもらおうと良い。読書をするなら骨のあるものを選ぶように。そして過去問を解いてみよう。

数学の学習について

数学科 日比 達也

この春休みに自分の弱点を分析し、自分で克服する学習へ切り替える。模試の結果を活用すること。

【理系】この春、理科が忙しくなる前に苦手分野をなくす。余力のある人は数学Ⅲを最後まで予習して4月を迎える。

【文系】年明けから2か月間、入試問題の演習をおこなった。授業でも言ったように、妥協を許さないやり方で春休みを過ごして力をつけること。成功した人の特徴は、教科書を完全に理解しようとし、継続して数学に取り組むことである。

英語の学習について

英語科 植田美智留

1月の記述模試での、英語の結果による春休みの学習アドバイス

- ・偏差値 72 以上→『全国大学入試問題国公立編』(旺文社)。長文読解の演習を重ね、語彙力を増強すること。
- ・偏差値 64 以上→『標準英文法・語法 1000』(いづな書店)。間違えた問題こそ、次こそは得点源になるように。
- ・偏差値 64 未満→『Improve』『Unit20』『Unicorn』。学年末考査範囲の英文を暗唱し、速単1冊をこなす。

英語を勉強しないという選択は、即ち浪人をするという選択に直結する。この1年を大切に。

社会の学習について

社会科 三浦 寛之

まずは教科書を終わらせること。自分だけ授業を先取りすることは、何らズルいことではない。春休みの間に予習あるいは読み物感覚で教科書を読んでおくとよい。

【理系】

来年度は B 科目 1.5 コマ、A 科目 1.5 コマとなる。A 科目を通して知識の補完をしてもらいたい。意外なところで生きてくるはずである。

【文系】

(1) センター試験のみ

3.25 コマあるので時間的には余裕があるはず。教科書を読み込むだけでなく、図説も照らし合わせて視覚的印象を強めるとよい。できるところから過去問にあたるとよい。過去問によって復習することが最も効果的かつ効率的である。

(2) 二次・私大 (論述不要)

やや細かい知識が求められる。用語集を座右に置きながら過去問を解くことで知識の幅が格段に拡大する。重箱の隅をつつくような入試問題は、受験生全員が知らないと思えばよい。確実に正解できる問題を凡ミスで落とさないことを重視しよう。6~7割取れば十分。

(3) 二次・私大 (論述あり)

細かい知識は問われないが、歴史の流れや因果関係などが問われたり、事件の内容や政権の性格などの説明を求められたりする。これも過去問に当たるのが最もよい。かつ、先生に教えを乞うことである。論述問題は文章によって他社に説明するものだから、他者に評価してもらい、自分の文章や表現の癖などを指摘してもらおうとよい。

〔注意点〕

- ・英数国とのバランスを間違えないこと。
- ・センター利用のみであれば、3教科：地歴＝6：4、二次私大利用者は5：5を目安にする。
- ・過去問は早めにやっても損はない。むしろ早めにやっておけばどのような問題傾向かがわかる。

理科の学習について

理科 園部 利彦

牧野富太郎(1862~1957)は、幕末の土佐国(現・高知県)に生まれ、世界的な植物学者になった人で、「楮鞭一撻」は、彼が二十歳の頃に勉学心得や抱負を書き留めた手記です。楮鞭は赤い鞭で、中国の伝説上の帝王である神農が赤い鞭で草を打ち、その毒性や味を調べた故事によります。

この手記は、植物学での大成を目指す若き日の牧野が、三日三晩自問自答して練り上げたものとされます。しかしそれは植物学を志す人への提言にとどまらず、「植物学」を他のものに置き換えることによって、社会におけるほとんどあらゆる分野に通用する心構えになります。ここでは、牧野にとっての植物学を、皆さんにとっての受験に置き換えて解釈したものをお話します。

楮鞭一撻 結網子稿

- 忍耐ヲ要ス(成果が出るまで我慢する)
- 精密ヲ要ス(もれなくむらなく綿密に勉強する)
- 草木ノ博覧ヲ要ス(専門とすることについて知悉する)
- 書籍ノ博覧ヲ要ス(多くの書物を読んで物事をよく知る)
- 植学ニ関係スル学科ハ皆学ブヲ要ス(関連する事項を全て学ぶ)
- 洋書ヲ講ズルヲ要ス(外国語は大切である)
- 当ニ画図ヲ引クヲ学ブベシ(図を描いて覚えたり、問題を解いたりする)
- 宜ク師ヲ要スベシ(よい先生に出会う)
- 吝財者ハ植物学タルヲ得ズ(参考書、問題集などに投資を惜しまない)
- 跋渉ノ労ヲ厭フ勿レ(面倒がらずに質問するなど、足で稼ぐ)
- 植物園ヲ有スルヲ要ス(勉強できる環境を確保する)
- 博ク交ヲ同志ニ結ブベシ(友人、友情を大切に)
- 邇言ヲ察スルヲ要ス(一を聞いて十を知る)
- 書ヲ家トセズシテ友トスベシ(書いてあることを動かし難いものと捉えず、融通がきくものと捉える)
- 造物主アルヲ信ズル母レ(略)

牧野はまた「結網子」を号としました。彼は少年期に儒学者伊藤蘭林(1815~1895)の私塾で『漢書』を習い、〈列伝〉の中の『董仲舒伝』(董仲舒は前漢時代の儒学者)にある「古人有言、臨淵羨魚、不如退而結網」(淵に臨みて魚を羨むは、退いて網を結ぶに如かず)の故事を知りました。「結網」は、その最後の二文字です。「岸边に立って魚を獲りたいと眺めているだけでは何にもならない。先ずすべきことは家に帰り、網を作ることである」とは、願望の実現にあたっては地道で堅実な準備や対策が重要であるということです。(本稿は牧野富太郎研究会のホームページから引用しました)

皆さんの健闘を祈ります。

◆■2月2日(木)

■学年の和

QUIZ大会の開催について

平成28年度後期生徒会長一昨年度まで、この2月には後期球技大会

が開催されていきました。学年の締めくくりにあたって各クラスの築き上げた団結力を発揮する機会として、当時の生徒には大変人気の行事であったようです。しかしながら、冬季には体調を崩しやすく、グラウンドの状態も良好とはいえないという状況を鑑み、昨年度からは屋内での催しに変更されました。平成27年度は先生方が発案なさった百人一首大会を学年別に行いました。百人一首大会では、同出席番号の10人(各学級から一人ずつ)が札を囲み、日本の伝統文学に触れながら競技を楽しみました。

今年度に入り、「今年も百人一首大会を。」というご意見もあったようです。しかし、仲の良い友人と一緒に活動することができず退屈だった、百人一首をほとんど知らないのも楽しめなかった、といった感想も生徒からは多く寄せられていました。そこで私たち生徒会は新しい企画を始めることにしました。それこそが QUIZ 大会の原点です。ですからこの QUIZ 大会は、友人と一緒に活動する楽しさ、自分も参加しているという満足感を大切にしました。

前例のない企画に戸惑いながらも、後期生徒会執行部6人は、12月初旬から構想を練り始めました。問題形式、問題の内容、得点の入れ方、会場設営の準備…。企画が進むごとに課題が見つかり、1月中旬にやっと問題の形式が決まったのです。その後は先生方に出題を依頼したり得点掲示の方法を模索したり、6人が役割分担をして一斉に動き出し、1月下旬に見通しがついたという次第でした。QUIZ 大会当日は、会場設営と得点掲示について体育委員に協力していただき、大盛況の中に幕を閉じることができました。

クイズは全て4択問題で3問を1タームとしました。ひとつのタームの3問すべてを正解した人が得点し、クラスごとに得点を競いました。タームは6つあり、それぞれ「社会・国際」「文学・英語」「スポーツ」「理科」「音楽・芸能」「岐阜高校の先生」というテーマが設けられました。ターム内の1問目は知識を問うクイズ、2問目は思考を伴うクイズ、3問目は各科目の先生方出題のクイズとし、第6ターム(岐阜高校の先生)では男性教師陣・女性教師陣にそれぞれアンケートを行い、その結果を当てるクイズを出題しました。4人の先生方に二重跳びをしていただき、その回数順位を当てるクイズも出題しました。

QUIZ 大会の特筆すべき成果は、誰もが楽

しめる企画であったことです。問題の質は岐阜高校の名に見合ったものであり、学校行事として充実した内容のものでした。また、1・2年生の全員が精力的に参加し、笑顔で体育館を後にしたことは何よりも大きな意味をもつでしょう。さらに、不正解者は潔く不正解を認め、ルールを忠実に守ることのできる岐阜高生だからこそ成立したこの行事には、岐阜高校の良さがよく表れたものであったと確信しています。

以上のように、今回の QUIZ 大会は生徒会の企画・運営によって開催されました。問題の内容や会場設営の点についてまだ改良の余地があるこの企画を、是非とも来年以降も改善し続けていただけたらと思います。平成28年度が生徒会の新しいステージの発端になることを切に願います。

◆■3月1日(水)

■卒業証書授与式

390名が卒業証書を受領

式辞

校長 南谷 清司

三寒四温、自然界の営みを、先人は素晴らしく表現しています。寒い日々の後、比較的暖かい日が訪れる。しばらくしてまた、寒い日々に戻り。それを繰り返しながら、冬が去り、春が来ます。弥生三月、日ごとに寒さも和らぎ、生きとし生けるものが、新たな生命の躍動を始める春が、いよいよ巡ってきました。

そうした中、同窓会長水谷邦照様、PTA会長河田誠様を始め御来賓の皆様、そして、卒業生の保護者の皆様の御臨席をいただき、平成28年度岐阜県立岐阜高等学校卒業証書授与式を挙げていきますことは、本校にとりまして、誠に喜びとするものであります。

ただ今、卒業証書を授与しました、390名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんは本校での三年間、自らの目標に向かって、並々ならぬ努力を傾けてきました。また、部活動では忍耐力や協調性、学校祭や球技大会では、リーダーシップや見通しをもって行動する力など、単に教科書から学ぶ知識だけではなく、生きるために人として必要な力も身につけてきました。

私は、皆さんが、岐阜高校だからこそ身につけることができた、これらの力を活かして、

社会のために立派に活躍してくれるものと信じています。

御臨席の保護者の皆様、三年の間には多くの御苦勞もあり、今日この日を迎えての感激は、言葉には表せないほどのものかと思いません。三年前に皆様からお預かりしました、大事な大事なお子様たちは、御覧の通り見事に成長して、誇らしげに本校を巣立って行こうとしています。御安心いただけたでしょうか。

どうぞ、希望に胸を膨らませ、新たな目標に向かって歩み始めるお子様が、よりたくましく成長できますよう、尚一層の励ましと力添えをお願いいたします。

さて、卒業生の皆さん、選挙権年齢が18歳以上に引き下げられ、皆さんの多くは高校生の中に選挙権をもつようになりました。この一月の岐阜県知事選挙で投票した生徒も多いと思います。

今後は、選挙権年齢の引き下げに合わせて、民法においても、成人とされる年齢を、20歳から18歳に引き下げることにも課題になってくると思われます。20歳で成人になるところを、18歳から成人にしようというわけです。卒業生の皆さんのほとんどは既に18歳になっています。いつか、皆さんはすでに、民法上の成人を迎えた、ということになるかもしれないのです。

自分のことを、法律上はもう成人だと見なされることについて、皆さんはどのように感じますか。成人と見なされるのはまだ早い、と思う人もいれば、自分はもう十分大人だから成人といえる、と考える人もいることでしょう。一人で何でもできると思う時と、まだ親や先生の助けが必要だと思う時があり、よく分からない、と感じる人もいるかもしれません。

この成人年齢引き下げに関しては、賛成意見も反対意見もあり、この先どうなっていくかはまだ分かりません。

しかし、確かにいえることは、高等学校を卒業するということは、大学へ進学する、一人暮らしを始める、アルバイトで報酬を得るなど、皆さんを取り巻く環境が大きく変化する時期、つまり、子どもから大人へと、自らの立場が大きく変化する時期を迎えたということでもあるのです。

では、大人になるとはどのようなことを意味するのでしょうか。自分で生活費を稼いで、経済的に自立をすればよいのでしょうか。親元を離れ、一人で生活を営めばよいのでしょ

うか。仕事を始めて、社会に貢献すればよいのでしょうか。皆さんはどのように考えていますか。

私は、大人になるということは、自らの頭で考え、行動し、自ら責任を負う人間になることだと考えています。

これから大学へ進学する皆さんは、高校よりはるかに多くの自由を手に入れることでしょう。学びたい授業を選択し、興味のあるサークル活動に参加し、アルバイトをしてお金を稼ぐことを、すべて皆さんの意思で決めることができます。更に一人暮らしをすると、寝起きする時間も、食事の献立も、すべて皆さんの自由です。

今までは、与えられた課題をこなさなければならず、家族のペースに合わせて生活をしなければならなかった皆さんには、とても魅力的な生活に感じるのではないのでしょうか。

しかし、得られた自由には、必ず責任もついてきます。目の前に広がっている数多くの選択肢の中から、何かを選び取り、そして、その選び取った何かの代わりに、後ろ髪を引かれる思いをしながら、何かを選び捨てる、という、将来を見通せない中での、自己責任での選択のプロセスは、皆さんが思い描いているほど甘いものではありません。

自分は何をしたいのか、これからどうなりたいのかを、常に自分に問いかけながら、一つ一つ考えて、自分自身で決めなければならないのです。誰かからの十分な助言もなく、これでいいのかと不安になることもあるでしょう。誰も代わりに決めてくれない中で、自分はどうしたいのか、分からなくなることもあると思います。寄り添って守ってくれる存在がなくて、孤独を感じる時もあるでしょう。

そのような迷いや不安が生じた時は、本校の校訓「百折不撓 自彊不息」を思い出してください。本校での三年の間には、課題をやりたくない、様々な活動をもう辞めてしまいたい、と考えたことも時にはあったでしょう。それでも思いとどまり、家族や、仲間、先生方の助けを支えに、何とか取り組んできたことと思います。そして最後には、楽な方へ進まなくて良かった、自分はよく頑張ったという思いを抱いたのではないのでしょうか。そのように揺れ動きながら、本校の校訓である「百折不撓 自彊不息」を胸に努力してきた皆さんは、この校訓にふさわしい人間に成長しているはずです。

皆さんもよく理解しているように、「百折不

撓」とは幾度失敗しても志をまげないこと。つまり、自らの未来を見つめ、やらなければならないことを、自らの責任で決定し、そして、その未来に近づくために、自らを奮い立たせて挑戦し続ける確固たる志を意味しています。

「自彊不息」とは自ら努め励んでやまないこと。つまり、輝く未来の実現に向けて、豊かな知識や知恵を身につけるために、心と態度を、自ら厳しく律し鍛える気迫のこもった実行力を意味しています。

この三年間で身につけた、「百折不撓 自彊不息」、言い換えれば、確固たる志と気迫のこもった実行力は必ず皆さんの大きな糧となります。

どうぞ卒業生の皆さん、自分を信じて、自分が正しいと思う道を、強い決意と希望をもって、力強く歩いてください。そして、この母校で、素晴らしい輝きを放つ皆さんと、再び会える日を、教職員並びに在校生一同、楽しみにしています。

桜の開花とともに始まる、希望に満ちた、前途洋々たる未来に幸あれと、心から祈念して卒業式の式辞といたします。

来賓祝辞

PTA 会長 河田 誠

PTA を代表いたしまして、一言ごあいさつをさせていただきます。

皆さん、ご卒業おめでとうございます。

進路が決まり希望に胸を躍らせている人、国公立大学二次前期試験の吉報を待ちわびている人、二次後期試験の準備に取り掛かっている人、心境はそれぞれ違えども、今日こうして皆さんの姿を見ていると、私自身の高校時代のことと重ね合わせ、どこか懐かしく、嬉しく、温かな気持ちをもって今この場に立っております。

また、保護者の皆様には、お子様が立派に成長され、今日の日を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。

そして、校長先生はじめ先生方におかれましては、生徒たちをここまで温かく、時には厳しく導いてくださったこと、保護者を代表して心よりお礼申し上げます。今日で終わりではなく、この先も子どもたちのよき相談相手として、変わらぬご指導をよろしく願います。

さて、これからも続く長い人生の中であって、高校生活は、ほんの短い時間だとは思

いますが、三年間で見違えるように立派に成長してくれました。これは、勉強で、部活動・生徒会活動で、課外活動で達成感と挫折感を味わいながら、皆さん自身が学び得た努力の賜物です。そして、林間学舎活動、岐高祭、グローバルリーダー養成事業などを通じて、先生方のご指導はもちろんのこと、多くの友だちとの交流から得た優しさ、温かさによって育まれてきたからだと思います。

さて、ここで皆さんに昨年アメリカのニュースサイトで発表された、80歳以上の高齢者を対象としたアンケート調査を紹介したいと思います。アンケート調査の質問はいたって簡単なものです。人生で最も後悔していることは何ですか？ というものです。どのような回答が多かったと思いますか？ 皆さん、少し考えてみてください。

人生の終盤を迎えた人たちの70%が同じ回答だったそうです。

70%の回答が、チャレンジしなかったこと、でした。自分が80歳になり人生を振り返った時、後悔がないように生きていきたいと誰もが思うはずですが、しかし、現実はいきません。ただ、ここでいうチャレンジしなかったというのは、実現したか実現しなかったかではなく、努力したか努力しなかったかでもなく、そもそもチャレンジせずに手をこまねいてしまったことを後悔しているということです。

チャレンジには失敗がつきものです。皆さんも何かをやってみて失敗した経験もたくさんあると思うのですが、それはほとんどの方が後悔ではなくよい思い出になっているはずです。失敗を恐れてチャレンジしなかったこと、やらなかったことが後悔になるのです。ただ、人生の中で、絶えずチャレンジを続けることは不可能です。皆さんのお父さんお母さん世代が毎日チャレンジをしていては、家族は安心して暮らしていけません。チャレンジには賞味期限があるわけです。

皆さんは、岐阜高校で三年間学び巣立っていくわけですが、この先、どの道を選ぶにせよ、皆さんは大人になる第一歩を踏み出します。これまでは、保護者や周囲の大人が守ってくれる生活であり、それは時に不自由さを感じさせるものであったかもしれませんが、これからは自分の意志が尊重され、選択できる幅が広がる反面、責任もまた大きくなります。こうした環境の変化の中、皆さんの年代は、もうしばらくの間、チャレンジが許され

ます。皆さんも失敗することを恐れる気持ちはあると思いますが、それよりむしろチャレンジしない方がずっと後悔として重く残ります。だったら失敗を恐れずにどんどんチャレンジしましょう。

今日、岐阜高校を卒業する皆さんにお願いがあります。高校生活を過ごした岐阜の地を離れ、全国各地へ旅立つ人も多いと思います。中には、将来的に海外に拠点を移す人もいるかと思いますが。地球のどこに住んでいようとも、岐阜高校を卒業したことを誇りに、ふるさと岐阜を忘れないでください。今は気づいていなくても、岐阜を離れて暮らしてみると、街中を清流長良川が流れ、自然豊かな岐阜のよさに気づくはずですよ。遠く離れていても、ふるさと岐阜の活性化に力を貸してください。

最後になりますが、PTAとして、卒業生の皆さん一人一人が輝かしい未来へ羽ばたいていくことを願い、またそうなることを確信いたしました。私のお祝いの言葉といたします。ご卒業おめでとうございます。

送辞

在校生総代

冬の寒さがまだ残る中、暖かな日差しに春の訪れを感じる頃となりました。このようなよき日に岐阜高等学校をご卒業される先輩方に、在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

期待と不安の入り混じる中、先輩方がご入学されたあの春から、早三年が経とうとしています。先生方から刺激を受け、友人と語り合い、時にその友人と分かり合えず、つらい思いをされたこともあったでしょう。岐阜高校で青春を謳歌してこられた皆様は、今どのような思いでこの卒業式に臨んでいらっしゃるでしょうか。充実感でしょうか、喜びでしょうか、言葉にはならない思いが胸いっぱい溢れているのではないかと思います。

私達は入学以来、部活動や岐高祭を通して、先輩方から多くのことを学びました。物事の課題点を指摘する洞察力、寛容な心と良識、そして周りに流されない強い心。私達が先輩方から学んだことです。

先輩方と最も近くで接することのできた、部活動。今直面する課題を見抜き、改善策を講じていく、鋭い洞察力を教わりました。私の所属するバレーボール部でも、練習試合の映像を繰り返し見て、ポジショニングやトスワークについて先輩方とよく話し合いました。的確な指摘をして策を講じる、そんな鋭い洞

察力をもった先輩方は、私たち後輩を惹きつける魅力に溢れていました。

先輩方のもつ活力に圧倒された岐高祭。自らの携わる企画だけでも大変でありながら、わざわざ私達後輩の展示や上映にもご足労いただき、励ましてくださいました。また、どの学級の演劇にも、先輩方の文化祭に対する意気込みが溢れていました。迫真の演技、工夫された台本や演出、繊細で艶やかな衣装や道具。観る人すべてが感動しました。さらに、出し物の順位を決める全校投票では、自分の学級を優勝させたいと思いつつも、良心に恥じる行為をせず、正々堂々と競い合う先輩方のお姿に威厳を感じ、尊敬の念を抱きました。

私が大変お世話になった生徒会の先輩方。先生方の意見をそのまま受け入れるのではなく、一方で生徒の要望だけを傾聴するのではなく、常に公平性と正義を求め続ける姿に、周りに流されない強い心の在り方を教えていただきました。

先輩方が伝えてくださったことは、岐阜高校の伝統と岐高生の精神です。言い換えれば、百折不撓・自彊不息の精神と桜の校章に刻まれた誇りです。先輩方の残された素晴らしい足跡は、偉大で華麗な岐阜高校の歴史に存在感をもって、刻まれていくことなのでしょう。私達も必死になって先輩方に追いつけるよう努力します。是非とも今後の岐阜高校を変わず温かい目で見守ってください。

今日の日本を取り巻く世界情勢は変革期を迎えているようです。ポピュリズムが再び世界中を席卷し、他民族・他文化を排除する動きが高まっています。アメリカ合衆国のみならず、欧州の先進国でも過剰な国家主義を掲げる政党が台頭しています。一方我が国も、難民に対する人道支援の問題や近隣諸国との歴史的な問題を抱えています。今後の世界情勢を大きく左右するこれらの問題を誰かが解決せねばなりません。その誰かとは、他でもなく先輩方であると信じています。先輩方のもつ、活力、洞察力、寛容な心と良識、そして芯のぶれない強い心があれば、必ずや世界協調の雰囲気を作り出せるはずです。私達も先輩方の後を一生懸命、追いかけます。私達の憧れであり続け、私達の模範であり続けてください。

新しい世界に一步踏み出し、新しいことに挑戦しようとするとき、つらいことも多くあるでしょう。どうしても乗り越えられない壁

が目の前に立ちほだかる時、この岐阜高校で学んだことを思い出してください。岐阜高校での出会いを大切にしてください。そして、自信と誇りを取り戻し、一歩ずつ前へ歩んでいってください。

いよいよお別れせねばなりません。とても寂しいことですが、いつかまたお会いできることを楽しみにしております。最後になりましたが、先輩方のますますのご活躍をお祈りし、送る言葉とさせていただきます。

答辞

卒業生総代

冬の寒さも和らぎ、暖かい日差しに春の訪れを感じるようになりました。

本日はご多忙にもかかわらず、ご来賓の方々、保護者の皆様のご臨席を賜り、私達卒業生のために、このように盛大な式典を挙げていただき、誠にありがとうございます。

卒業生一同心より感謝申し上げます。

三年間の高校生生活も終わりを迎え、新たな世界への船出が近づいています。目の前に並ぶ多くの受験番号の中から、自分の番号を見つけ、飛び上がって大喜びした三年前の三月。あれから今日まで、実に様々なドラマがありました。そしてそれらすべてが、私達の「青春」でした。

143年の歴史と伝統をもつ岐阜高校は、中学時代、憧れの高校であり、いざ岐高生となり、その証である桜の校章を手にした時、青空の下、白く輝く美しい校舎で過ごす新生活への期待に胸躍らせると同時に、岐阜高校のレベルの高い学習についていけるのか、など不安も覚えました。しかし、周りには気軽に話しかけてくれる人がたくさんいて、人見知りな私でもすぐに仲間の輪に入ることができました。彼らと過ごす日常生活の中で、不安は次第に薄れていきました。

仲間、それは三年間切磋琢磨し合った存在であり、辛く苦しい時に励まし合い、支え合った大切な存在です。

球技大会、林間学舎、修学旅行、岐高祭といった行事では、皆で一緒に盛り上がり、楽しむことができました。短い期間しかない中で練習した出し物を披露し、みんなで大笑いした林間学舎のキャンドルサービスや、友人達と語り合った修学旅行の思い出は、今でも鮮やかに蘇ります。

私は硬式テニス部に所属していましたが、仲間の一途な姿が刺激となり、私も最後の最

後まで諦めずに踏ん張ることができるようになりました。大事な場面でポイントを取られ、落ち込む私の背中をぽんと叩き、「まだ終わりじゃない」と勇気づけてくれたり、コートの外から、声を張って応援してくれた仲間がいたからこそ、公式戦の極度の緊張の中でも、自分を奮い立たせ、最後まで戦うことができたのだと思います。他の部活でも、そのような仲間達から勇気づけられる場面がたくさんあったことと思います。

日頃の学習でも、周りの、必死に取り組む姿に、私も負けてはいられないと、奮起したものでした。

仲間の存在が、私達を強くしてくれたのです。

私は二期にわたって生徒会長を務めさせていただきました。「何事も例年通り」ではなく、それを越えた活動をしたいという私の方針に賛同し、協力してくれた仲間たち。今年度の岐高祭が大成功に終わったのも皆のおかげだと思います。かつてない大人数で挑んだオープニングは、まさに仲間の力の結晶でした。オープニング前のCMやポスターなどの新企画も、皆で知恵を絞った結果です。

クラス演劇はどのクラスも見る者を圧倒する、素晴らしいものでした。しかし、その裏には、数多くの苦労がありました。練習日程が合わなかったり、セリフがとんだり、舞台装置を壊したり、時には周りとの意見が合わず、衝突することもありました。しかし、発表を終えて幕が降りたとき、それまでの苦労が喜びとなって爆発し、絶叫しながら皆と抱き合ったものでした。

体育大会の応援合戦も完成度の高いものでした。熱暑の中、団員を一つにまとめるため、一糸乱れぬ演舞のため、団長や応援リーダー達は、吹き出る汗も構わず、ひたむきに取り組みました。心を砕き、頭を寄せ合い、少しでもよいものをつくりあげようと、日々熱く燃えた、最高の夏でした。

在校生の皆さん、皆さんは私達が大切にしてきた「岐高生魂」を受け継いでくれる頼もしい存在です。しかし、ただ受け継ぐだけではなく、新たなよき伝統を築いていくことにも期待しています。誰にでも辛い時や投げ出したくなる時はありますが、そんな時こそ、顔を上げて、周りを見渡してください。頼れる仲間、支えてくれる仲間が必ずそこにいます。皆で支え合い、皆の力でよりよい岐高文化を創り出していってください。

私達が今日のこの日を迎えることができたのも、先生方の熱いご指導のおかげです。進路について悩む中「自分はどうしたいのか」を自分自身で徹底的に考え抜き、決断することの大切さを教えて頂き、また、その決定を一番尊重し、応援して下さった先生方のご指導には深く感謝しています。

そして何より、18年間育てて下さったお父さん、お母さん、本当にありがとうございました。毎日欠かさず作ってもらったお弁当、「いってらっしゃい」と笑顔で送り出し、「お帰りなさい」と温かく迎えてくれたその優しさは一生忘れません。時として、私達がつく当たってしまった時も、ひたすら聞き役に徹し、すべてを受け止めてくれた懐の深さには、何度も救われました。まだまだ未熟な私達ですが、どうかこれからも温かい目で見守ってください。

今を遡ることおよそ500年前、コロンブスやバスコ＝ダ＝ガマ、マゼランなど名だたる冒険者たちが新天地を目指して船に乗りました。そう、「大航海時代」の到来です。今ほど技術が発達していなかった当時、大海原を渡ることは、困難を極めたはずですが。それでも彼らが突き進んだのは何故でしょうか。私は彼らの、心の底から湧き上がる探究心とチャレンジ精神がそうさせたのだと思います。これから私達は、二十一世紀の地球という大洋を、それぞれの目標に向かって進んで参ります。目の前に広がるのは、前人未踏の未知の世界です。その航路は、決して順風満帆ではないでしょう。しかしそれでも、私達は進み続けます。世の荒波に負けることなく、遙かに見える希望の大地へと、私達は信念の帆を真っ直ぐに立てて突き進んでいきます。

「グローバル化」が叫ばれる現代ですが、依然として言語・文化・思想信条など、多くの壁が行く手を阻むでしょう。しかし、それらにひるむことなく、国際社会の大舞台上で活躍するという熱い思いを胸に、「百折不撓 自疆不息」という校訓のもと、これまで培った「岐高生魂」で幾多の波濤を乗り越え、それぞれの思い描く目標の地に向かって旅を続けます。

今、万感の思いを込めて
ありがとう岐阜高校、さようなら

三か年皆勤者 90名
淘金賞 6名

※以上は2月28日(火)の表彰式・贈呈式

にて表彰・贈呈されました。

◆■3月24日(金)
■離任式

恩師の言葉

自由を守ること

理科 園部 利彦

この14年間には、担任・学年主任(4年)、校舎建築(5年)、創立140周年記念事業の準備(2年)、学校活性化委員会(3年)の仕事を担当してきました。生徒諸君、先生方にはいろいろとよくしていただき、ありがとうございました。しかし、2月後半には肺炎で入院し、卒業式も欠席しました。教員としての最後に申し訳なく思っています。

さて、4年前の3月25日、私は、できたばかりのこの体育館で行われた離任式で、鹿野孝紀校長先生の言葉を聞きました。その一部を皆さんにお伝えします。

最後に、校長としてではなく、君たちの先輩として話します。私が岐高で一番好きなのは、校則が少なく自由な校風にあふれているところです。岐高のすばらしいところは、何が正しくて何が間違っているかを、多くの生徒が自分で判断できることです。岐高に校則が少ないのは、適不適を岐高生が自分で判断できるからであって、自由を守る校風は、私の高校時代から何十年ぶりに校長をやった今まで、継承されています。自由な校風は自分たちで守るものです。

次に、イギリスの推理作家アガサ・クリスティの作品に名探偵ポアロのシリーズがあることをご存じだと思います。その中でも屈指の名作とされる『オリエント急行の殺人』から、皆さんにどうしてもお話ししたいことがあります。

ポアロは、乗り合わせた寝台列車で起きた殺人事件を解決して車内の乗客に説明し、その後ユーゴスラビアの警察に状況を伝えました。

原作本や映画版には見当たらないようですが、2010年にイギリスで制作されたテレビドラマでは、いわゆる謎解きとユーゴスラビア警察への説明の間に次の場面があります。

ポアロ「これは何ですか。まやかしの陪審員

が、でたらめの人民裁判を。一体何様のつもりですか」

女性の乗客「私たちは法に正義を求めたが、全ては徒労に終わった」

ポアロ「違う。こんなことをするあなた方はただのならず者だ。人々が好き勝手に隣人を裁いていた暗黒の中世と同じ。法の精神は高く尊ばれるべきもの。地に墜ちないよう我々が支えなければならぬ。それが崩れてしまったら、文明社会は全ての拠り所を失ってしまう」

ここで、ポアロは探偵として事件を解決はしますが、司法の側でも警察の側でもない一市民であることを考えると、我々がなすべきことが見えてきます。

岐高生が自分の学校の自由を守ることは当たり前のことです。皆さんに求められるべきは、社会の真理と自由を守ることです。そのために、まずは、今当たり前にある様々なものが、先人の尽力の成果であり、さらに不断の努力によって維持されてきたものであることを知ることで。

皆さんの今後の努力に期待して、私の挨拶を終わります。

退職に寄せて

社会 篠田 明典

私は母校で退職できて幸せだと感じています。そんな私から皆さんに2つのことを伝えたいと思います。

一つ目は、岐阜高校での縁を大切にしてほしいということです。3年の時、隣のクラスになったS君とは同じ学校で勤めることになり、岐阜高校の同級生というだけで、困った時はいつも助けてもらいました。また、生徒会で知り合ったS君には、生徒の求人の中で助けてもらったこともあります。私は高校時代サッカー部でしたが、ポジションは残念ながらスタンドでした。しかし、顧問の先生は、私が教員になると勤める学校の先生に、「今度転勤して来る篠田をよろしく」と毎回言ってもらえたので、新しい職場に早く慣れることができました。

二つ目は、人の話を聴くということです。ところで、名医と藪医者の違いがわかりますか？名医は聴術に優れていて、患者の話に耳を傾けるそうです。一方、藪医者は数字で患者をねじ伏せるそうです。岐阜高校に話を戻すと、最初の基調講演の大栗先生やハーバー

ド大学の河合先生の講演会で、質問をする生徒を見てすごいと思いました。質問するためにはよく聴いていないとできないからです。岐阜高校ではすばらしい講演会が目白押しです。よく聴いて自分のものにしてください。

最後に、1年1組の皆さん、最後に配った柳宗悦の文章を読んでくれましたか。まだの人は是非読んでください。1年6組の皆さん、“しのじい”と親しんでくれてありがとう。3年生の皆さん、『ライフ=イズ=ビューティフル』と『わたしは、ダニエル=ブレイク』の映画を是非見てください。

学んだことを糧に

国語 日置 友理

この度、3年間勤めた岐阜高校を去ることになり、最近岐阜高校に来た頃のことをよく思い出します。登校してくると、元気に挨拶をする皆さんの姿を見て、爽やかな生徒だなあといい、また授業ではどんなときも真剣に耳を傾ける姿がとても印象に残っています。

男子バレー部の皆さん。専門知識もなく、技術的な指導ができない私でしたが、皆さんと一緒に過ごした3年間は幸せでした。一番心に残っているのは、1年前、今の卒業生と二年生の部員が、私は練習に行くと1列に並んで黙祷をしていたことです。3月11日のことでした。技術的なことだけでなく、そんなふうにも他人の苦しみに共感できる皆さんと一緒にいられたことを嬉しく思います。

一年生の皆さん。私の拙い授業にいつも耳を傾けてくれたこと、本当にありがとうございました。私が授業で一番大切にしていたことは、誠実であることです。目の前にいる皆さんにも、教材にも、誠実に向き合いたいと思って1年間授業をしてきました。だから、皆さんが熱心に質問をしてくれたりすると、とても嬉しく思うのと同時に、それに一生懸命応えなければという気持ちにさせられました。

そして、1年8組の皆さん。初めての担任ということで至らないところが多くあったと思います。でも、いつも皆さんの明るさと優しさに助けられました。ありがとうございました。

最後に、私が大学の卒業式で贈られて心に残った言葉を皆さんに贈りたいと思います。大学の学長は、「大学を出て皆さんが出逢う困難に立ち向かう術を全て学校で学ぶことはできません。だから、学んだことを糧に、学び

続けることが大切なのです」と言っていました。皆さんのこの岐阜高校での学びが、得た仲間が、この先の糧になることを祈っています。本当にありがとうございました。

役に立つとは

数学 箕浦 裕也

これまで支えてくださった先生方、つたない授業に付き合ってくれた生徒の皆さん、3年間ありがとうございました。

私が担当する数学という教科は、得意不得意が大きく分かれる教科だと思います。私も実は、高校の頃は赤点を連発していた人間でした。受験が近づいてくると、どうしても受験科目かどうか、得意か不得意かで軽重をつけがちですが、もしテストで点数が取れなければ、受けた授業は無駄だったのでしょか？ 自分にとって数学が役に立つとはどういうことでしょうか？ 例えば、友人や後輩、身近な人が数学で苦しんでいたとき、自分も苦しんだ経験があつてつい声をかけたとか、置いてけぼりのさみしさを知っているから一緒に考えてあげることができたとか、その経験があることでそれまでと違う行動が実現できたのなら、それこそがその人にとって役に立ったということではないかと私は思います。

皆さんには広い目で高校生活という経験を役立ててほしいと思います。私の授業もどこかで役に立てば幸いです。

さて、私は柔道部を3年間持たせていただきましたが、彼らと過ごしてきて柔道部のイメージががらりと変わりました。イベントが大好きで、部のTシャツを作ったり、棒倒しではここぞとばかりに張り切ったり、本当に楽しい部活でした。

柔道部はいつでもいきのいい部員、マネージャーを募集しています。張り切ってみたい人は是非柔道部へ！

どんなときも 元気に楽しく

体育 足立 愉有子

大学を卒業してすぐの3年前の今頃、初めての赴任校が岐阜高校と言われてすごく驚き、私が岐阜高校で大丈夫かなと思いました。実際に学校に来てきれいな校舎を見たとき、改めてすごいところに来てしまったという思いと、ものすごく緊張したことを覚えています。

皆さんの発想力豊かな活動にはいつも驚かされました。バレーボールの授業では試合前に急に円陣を組んで盛り上げていたり、ダン

スの授業では普段の勉強から吹っ切れたような面白いダンスを創作したり、保健の授業で毎回人とは違つたおもしろい回答を用意していたり、ユーモア溢れた皆さんと一緒に過ごした3年間はとても楽しい日々でした。特に卒業生の皆さんとは3年間学年を持ちあがつたので、林間学舎や修学旅行、岐高祭といった行事にも一緒に参加しました。今は教室として使われていない2-7のHR活動や掃除の時間など、体育職員室から一番遠い教室に毎日歩いて行ったのも良い思い出です。テニス部の皆さんも、一生懸命ついてきてくれました。私が教えたことを素直に吸収して、どんどんうまくなっていきました。もっと一緒に練習したいと思いますし、最後の試合まで教えてあげたかっつと感じています。振り返ると、この3年間、教えたことよりも私自身が教えられたことの方が多かつたのではないかと思うくらい、毎日が刺激的で、学ぶことの多かつた3年間でした。

私のバレーボールの授業を受けた人、私は3年間同じ合言葉を言っていたのですが、覚えていますか。「どんなときも 元気に楽しく。」バレーボールはいろいろなスポーツの中で一番ハイタッチの多いスポーツなので、周りとのコミュニケーションが大切。失敗した時も盛り上げて、元気に楽しく頑張りましょう。という話でこの合言葉をつたえてきました。実はこの言葉は『論語』の中にある一文がもととなっています。実際の言葉は「これを知るものはこれを好むものにしかず、これを好むものはこれを楽しむものにしかず」というもので、簡単な意味は「物事を理解しているものはそれを好んでいる人には及ばない、物事を好んでいる人はそれを心から楽しんでいるものには及ばないのである。」というような意味です。ただ理解する、行つたのではなく、好み、楽しんだ方が身につく、ということです。岐阜高校から異動することがさみしい思いや新しいところでの不安などいろいろありますが、この言葉のとおり、どんな時も楽しく頑張っていこうと思っています。

皆さんも、この先、勉強や受験、部活動など、色々なことに悩んだり、ぶつかつたりするかもしれません。けれど、どうせやるなら…どんなときも元気に楽しく！ 様々なことに取り組んでください。

3年間ありがとうございました。